

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071501086		
法人名	社会福祉法人 天光会		
事業所名	天光園グループホーム		
所在地	福岡県大牟田市宮崎1170-3		
自己評価作成日	平成26年12月25日	評価結果確定日	平成27年3月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/40/index.php?action=kouhouyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成27年1月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

大牟田市北部に位置する当ホームは、閑静な住宅地に隣接しており周辺は自然も多く、入居者の方々には穏やかな日々を送って頂いています。地域的にも顔馴染みの方からの声掛けや訪問があり、これまでの生活に根づいた環境で安堵感が持てるかと思えます。母体特養との合同行事も行い、併設事業所とは連携も取り易い利点があります。地域密着を踏まえた隣接の団地との交流も理念に基づいて日々繋がりが強まり、月1回の交流会「さつき会」は入居者様を交え和気あいあいと共有の時間を過ごしております。他「合同避難訓練」を実施。ご家族様も災害対策に協力体制が強くなっている事の安心を日々感じておられます。また、個々の健康面や認知症状緩和に専門医とも連携をとりながら、ご家族様のご協力を支えに全職員が、お一人おひとりに寄り添い、笑い声と心ある温かいケアでお手伝いできるような日々研鑽しております。

「天光園」は系列の特養、デイサービスなどと同じ広い敷地内に隣接された1ユニットグループホームである。建物は現代建築風のモダンな造りで、施設然としない瀟洒な雰囲気である。複数の福祉施設が同居し、地域に一体的な福祉サービスが提供されている。特養は40年以上運営され、元々地域との関わりも深く、夏祭りや、敷地内での花見などは地域の方も招いて盛況に催されている。近隣の団地のサークル活動「さつき会」とは発足時から関係があり、一緒になって地域の介護予防活動にも取り組まれる。サービスでも一人ひとりの状態にあわせた丁寧な態度を心がけ、入居者中心のケアを行っており、笑顔を引き出す介護を目指す言葉通り、調査時も笑顔にあふれていた。認知症進行緩和のため、脳トレやドリルをコミュニケーションをとりながら提供し、残存能力も活かして、掃除や調理の手伝いなど活発に手伝っている。年々地域交流も深まっており、今後も広く地域の福祉を支える事業所として活躍が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念については、実践を心掛けている。第3条は職員間での思いを取り込んだ。	グループホーム独自の5つの理念があり、前回の外部評価から理念についての話し合いを行った。理念にある「仲良く～」の部分で「楽しく笑顔に」と変え、改めてケアへの実践につなげている。理念は所内の各所と、パンフレットにも掲示され、日頃から地域交流など理念にそったケアを心掛けている。	今後も継続的に、理念の実践状況の振り返りや、新しい職員との理念の共有などが図られていくことにも期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	毎月の地域交流の場「さつき会」も入居者様を交え順調に開催している。地域との関りは強くなっている。	地域ボランティアや保育園から、特養と一緒に慰問を受けている。地域交流センターも開放して、「よかばい体操」や地域の「さつき会」との交流に活用している。「さつき会」とは発足から関わり、毎月、料理教室や認知症講習などを行っており、地域の介護予防にもつながっている。日常的にも差し入れを頂いたり、地域の施設OBの来訪があり、草取りやどんど焼きなどの自治活動にも入居者と一緒に参加することもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	徘徊ネットワーク開催の講習会にも地域から参加。近年地域から入居者の方への声掛けも多い。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員も増え、他職種からの情報、意見も活発化している。地域状況も高齢者の独居が多くなり、更にGHとの繋がりで介護予防的な集いも新たに計画中。	2ヶ月毎に開催され、入居者、家族、地域住民、民生委員、行政、地域包括から参加され、最近では介護相談員も声掛けて来てもらえるようになった。行事や状況報告を行い、地域情報をもらうこともある。参加者が増えたことで雰囲気もかわり、意見も多い。外部評価も報告し、議事録も全員に配布して共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議及び担当職員の方にも相談を行っている。	市主催の事業所協議会で事例発表をしたり、連携をとっており、運営推進会議にも毎回参加してもらっている。直近の指定更新に際し相談も行った。徘徊模擬訓練などには市とも協力して行い、担当者とも顔見知りで何かあった時の相談もし易い。夏祭りや花見なども案内して参加してもらったこともある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間で意識を持ちケアに努めている。	徘徊模擬訓練には地域の方とも一緒に参加し、玄関の施錠もなく自由に外出できる。出入りは鈴の音で確認し、付き添うこともある。万が一の離設にも近隣住民の見守りや徘徊ネットワークで備えている。今までに拘束の事例もなく、スピーチロックなどには日頃から職員同士で注意し、職員も拘束行為の理解を進めている。	

H26自己・外部評価表(天光園GH)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	所内での学習会を開き再確認を行っている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	契約時の説明は行っている。家族の環境の変化時には伝えた。職員、家族と学べる機会を計画したい。	現状は制度利用もなく、今までに支援を進めた方はいたが、活用には至っていない。一昨年の家族会で、地域包括に権利擁護の勉強会をもらった。マニュアルも整備し、パンフレットは家族に配布している。基本的な制度理解を進め、必要時は内外で相談協力しながら対応する方針である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容は分かり易いように行った。時間の経過によっては再度説明を行った。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各々の家族からの要望は実直に受け止めている。自宅への外泊、御家族のGHへの宿泊も柔軟に行っている。	介護相談員、傾聴ボランティアの受け入れがあり、何かある時は運営推進会議などで聞き取っている。毎年定期的に家族会も開くが、直近ではなかった。家族は協力的で面会の機会も多く、一昨年から担当から直筆の手紙を始めて喜ばれている。日頃からも要望を聞き取り、すぐに話し合って対応に活かしている。	表にあがって来ない意見を引き出す機会として、法人からのアンケートや、意見用紙を配布しての意見箱回収などを検討されてはどうだろうか。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	所内ミーティング等での希望、提案等は代表者への相談で繁栄出来るようにしている。	毎朝の申し送りとは別に、職員の出勤状況を見て1,2ヶ月に1回程度ミーティングも行っている。日頃から意見も言いやすい雰囲気積極的に提案も取り入れてもらえる。排泄介助の方法改善など、意見の反映も早い。日頃も管理者が現場にいますのでコミュニケーションも取りやすい。個別の目標設定と達成も上長と一緒に管理している。	職員の個別評価がなされているが、上長からのフィードバックも行うことでモチベーションアップにもつなげてはどうだろうか。また、外部研修への参加も増やしてスキルアップの取組にも期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を取り入れており、目標を設定している。体力、精神面での比重は高い職務の為、職員間のコミュニケーションをとるよう配慮している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	男性職員の採用や、法人内配置転換により、個々の能力を發揮し活躍してもらっている。検診も定期に施行。	職員同士のコミュニケーションもよく取られ、働きやすい。30～60歳代の職員がおり、外部研修案内や希望者の参加も出来る。休憩時間や、休憩場所も空き部屋などをつかって確保している。職員はそれぞれが能力や特技を活かして、似顔絵を書いたり、写真撮影、調理などで活躍している。	

H26自己・外部評価表(天光園GH)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	所内会議での学びや、日々職員への啓発に努めている。	平成26年に県が主催する人権学習に参加して、高齢者、障害者などに関する人権を学んだ。特養と合同で地域包括にも来てもらって権利擁護に関する研修も行っている。法人の社労士から新人に対しての研修なども計画されている。	事業所として、計画的な人権学習がなされることに期待したい。県や市の人権関連団体の活用や、講師派遣、出前講座などを検討されてもよいかもしれない。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で社労士による研修を行っている。新人のフォローアップ研修にも参加した。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「あんしん介護相談員」による意見交換会で同業のネットワークも出来ている。近隣の他事業所も交流が多くなっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の言葉を大切にし入居に繋げている。現入居者の力を借り信頼関係の近道となり新入居された方もおられる。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いも聞き取り、必要とされる部分も話し合いを持ち柔軟に受容するよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自宅から「通い」のサービスを受けていた方の入居当初の不安時は、前「通い」の場所や自宅へ帰宅する等の対応策に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事作業面では、随分と手助けをして頂いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎週末の面会や、毎月全家族の面会があり支えとなっている。		

H26自己・外部評価表(天光園GH)

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の嫁ぎ先の姑様も毎月畑の農作物を持ってこられ皆さんと共有時間を持たれたり協力頂いている。ご近所だった方の来訪や同窓会への参加もあった。	家族の関係者から差し入れを頂いたり、同郷の知人が積極的に協力してくれたりもしている。以前、馴染みのスーパーへの買い物も行ってた。家族ともコミュニケーションを取りながら、一時帰宅や外泊をする方もおり、協力の下、同窓会に参加したこともあった。電話などを手配することも多く、関係継続を支援している。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	円滑に生活が出来るよう努めている。			
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されても郵便物預かりのお知らせや、退院後のフォローや関係性を大切にしている。先日も訃報の旨ご報告を頂いた。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方に応じた希望や思いに添う支援へと努めている。職員間の情報共有でも個々の生活の変化時の対応を話し合っている。	入居時に、家族にも協力して記入してもらい、センター方式を活用したアセスメントを行い、本人の思いや家族の希望などを引き出している。担当職員が関わり、情報の変更時や状態の変化があれば追記し、アセスメントは半年～一年で見なおしている。情報の追加はモニタリング時に行っている。	定期的なセンター方式の見直しは、少なくとも介護更新時などに行われることが望まれる。また、職員の理解度を高めていくことで、さらに活用が発展されていくことに期待したい。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や以前利用事業所の職員からも生活習慣等の情報を聞き取り、大きな環境の格差がないよう努めている。自宅へ外泊される方、当ホームへ家族の宿泊の支援も継続中。			
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活パターンを知る事で残存能力を活かすよう努めている。			
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者が中心に本人の言葉や家族との会話の中でも聞き取り、プラン作成に取り組んでいる。毎月の生活状況も家族へお手紙としてお知らせしている。	担当制にされており、担当者がアセスメントとモニタリングを受け持つ。日々のケアプランの実施はケース記録の中で目標ごとに番号で管理している。モニタリングは3ヶ月、カンファレンスは随時変化のあった際や半年の定期で行い、担当者会議には家族にも参加してもらう。記録はプランを見ながら記入することで、職員とプランを共有している。家族へのお便りも記録に残すことでモニタリングに役立てている。	担当者会議時などに医師など他職種からの意見を照会し、プランや議事録に記録として残してはどうだろうか。	

H26自己・外部評価表(天光園GH)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、個人記録に気づきを記載。担当者会議、ミーティング等により情報共有し介護計画に取り組んでいる。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	変化時には柔軟さを持った対応に努めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア、地域住民に支えられ活気のある生活で心にゆとりがもてるように心掛けている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各々、これまでのかかりつけ医は継続して頂いている。	提携医に限らず、希望のある今までのかかりつけ医を継続してもらい、基本的には家族による通院介助を行っている。必要時には同行や、通院介助をすることもある。医療情報はその都度、個人記録に残し家族とも共有し、適宜それぞれのかかりつけ医と連携をとって指示を仰いでいる。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期受診や急変時はかかりつけ医院の看護師へ状況報告で受診へと繋げている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供を行い、入院期間によっては退居リスクの高い旨伝え、詳細を相談しやすい関係になっている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約説明の中で、重度化や看取りの行為が出来ない事をお伝えしている。	現状は医療行為を行わないため、看取りをしない方針で、その旨説明して同意を得ている。今までに看取った事例もなかった。重篤化の際には系列の事業所とも相談して対応出来る。	

H26自己・外部評価表(天光園GH)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生の予測で新人職員への指導は行った。痰吸引受講者、普通緊急救命受講者各1名いる。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急通報機にも地域住民の方3名を登録。定期に行っている避難訓練にも参加協力を得ている。	地域と合同で、夜間、日中想定 of 訓練を年2回行っており、消防署も立ち会われている。隣接の特養とも合同である。スプリンクラーなどの防災設備も整えられ、平屋建てで各所からの避難もし易い。備蓄も特養にグループホームも含めて備えている。訓練には家族が参加されたこともあった。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にも掲げており、職員全員が尊びの念を基本にケアすることに配慮している。	「どんな時にも誇りや尊厳のある暮らし」と掲げ、接遇やマナー研修も協力の社会保険労務士に来てもらって講義してもらった。内部での広報誌利用など写真に関しては事前に口頭で同意を得たものに留めており、入浴や排泄介助もプライバシーに配慮して行っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個性を大切にすることもケアの中で配慮しており、意思尊重と、自己決定へと繋いでいる。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	心の変化にも臨機応変にと努めている。。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容室は引き続きいかれている方もおられる。衣類は季節、気候に応じ一緒に選びその方に合ったおしゃれを楽しんで頂く支援をしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の嗜好の把握している。下拵えが出来る方は残存能力を発揮して頂いている。1人はソフト食、皆さん毎食ほぼ完食。片付けも協力的である。	職員も入居者の間に座って、介助もしながら同じものを一緒に食事している。本人のペースで目を配りながら介助し、メニューづくりも入居者と相談しながら好みなどを反映させ、買い物、調理も職員が行う。品数も多く、バラエティ豊かに提供され、入居者も積極的に手伝いをしていた。入居者の食欲も旺盛で、健康維持にもつながっている。	

H26自己・外部評価表(天光園GH)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量の記録し健康チェックを行っている。咀嚼が出来ない方はソフト食も取り入れ栄養面の配慮を行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは健康面にも影響する所でもあり励行している。歯科往診も依頼したり近隣の歯科医へ定期治療を行われている方もおられる。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握しその方に合った誘導を行っている。汚染で気分の低下にならない様スムーズな声掛けや誘導で自立への自信となるよう配慮も行っている。	排泄チェック表によって、全員分を管理し、一人につき半月単位で、バイタルや水分摂取などと共に管理している。それぞれの出すサインを読み取ってトイレ誘導につなげており、誘導の時間帯も把握している。トイレ排泄を基本として、夜間はポータブルトイレ、オムツなど使用し、状態や希望によって提供方法の見直しも行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	予防として乳製品を取り入れる工夫や軽体操も実施。排泄チェックによりリズムを把握し援助を行っている。医師への相談も行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在午後の入浴である。本人の意思確認は毎回行っており、希望時は柔軟な対応で行いたい。	タイル張りの浴室で、手すりもつき、浴槽縁も広く座っての移乗もし易い。基本的には週2,3回午後からの入浴で汚染のあった際などは随時提供する。拒まれた際も声掛けなどを上手に働きかけ、無理なく入ってもらっている。季節の行事浴などで変化や楽しみを持ってもらい、リラックスした場がコミュニケーションにもつながっている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も夜間への平穏な気持ちに繋がるよう対応し、夜勤者は全員の睡眠パターンを熟知し支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局での説明受けや、薬情により服薬後の経過観察は行っている。変化時は主治医へ報告を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ドリル、ぬり絵、かるた等々で残存能力を引き出す支援や、家事についても意欲的になれるような声掛けをおこなっている。		

H26自己・外部評価表(天光園GH)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食材の買出しで職員と共に近隣のスーパーへ出掛けている。家族の支援で毎週帰られる方や外食を楽しまれる方もおられる。	スーパーや道の駅への買い物、ドライブなどを行い、敷地も広く、緑も多いため、気軽に外気に触れることが出来る。大きな広場にも面して芝生が目心地よい。季節の花々を楽しんだり、外出レクでも外食、初詣、日帰り温泉などに行くこともあった。年3,4回程度の外食は喜ばれている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各自預り金がある。支払う段階になると職員に委ねられる方が多い。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	他県に居られる家族より固定電話へ午後より毎日会話される方、自己持ちの携帯電話で週毎話される方の支援を行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中はリビングで過ごされるのが安心が持てるようである。対面式キッチンで調理しながら会話が出る。リビング壁には季節に応じた掲示物で四季を感じて頂いている。自室、トイレなどにも分かり易く表示している。	中庭を中心に、リビングと居室スペースが正対したコの字型の建物で、中庭側は一面ガラス張り、非常に明るく陽が差し込んでいる。ライトブラウンを基調とした暖かみのある造りで、窓や間口も広い。外のつながりが感じられ開放的である。冬でも温かく、窓際でのひなたぼっこも楽しめる。季節折々の草花も咲き、間近に自然が感じられる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	殆どの時間皆様一緒にリビングで過ごされている。自分の落ち着く場所や仲の良い方の時間が自然に流れている感あり。DVDを習慣に楽しみに自室で経過される方もおられる。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を搬入して頂いている。その方の生活レベルにより洋室を和室で利用し布団の生活で安全な環境に努めている。	全室南向き窓で、芝生の広場が望め、採光も非常に良い。エアコンも壁面収納されており、片流れの天井が外に開けてシンプルですっきりしたデザインである。介護ベッドが準備もされ、パネルカーペットだが、畳を敷いて布団で休む方もいる。簡素な洗面台もつけられ、家具なども自由に持ち込まれている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人の行動でも目的の場所へ行ける事が自信になる様、自室入口にネームプレートやトイレ、洗面所の表示をしている。		